



平成14年度校友会

学生研究奨励基金 受賞者発表

東洋大学校友会では毎年、すぐれた論文・調査研究を行った大学院生に「校友会奨学金」を、学部や大学院の学生個人およびグループの研究に対し「学生研究奨励賞」の授与を行っている。これは卒業生の校友会費によってまかなわれている学生研究奨励基金の制度によるもの。学生の研究成果に対してこうした奨励金を授与するのは全国の大学でも珍しい取り組みとされている。

授与式は3月19日(水)午後3時から白山キャンパススカイホールで受賞者と指導教授あわせて約130名出席のもと行われた。14年度の授与件数は、校友会奨学金が大学院7名、学生研究奨励賞が55名(大学院生21名、学部生33名、留学生1名)だった。

主な受賞者へのインタビュー

学生研究奨励賞受賞(学部)

企業進化の リーダーシップ



経営学部経営学科4年
吉永 英幸 さん

中小企業の発展を時間経過と、組織の成長(私企業-小企業-中企業-中堅企業)の各段階に区分し、どのような経営課題があり、どんなリーダーシップが必要かを考察しました。

現在、税理士事務所に勤務し、これまで多くの中小企業の経営に深く関わってきましたが、最も強く感じたことは、中小企業経営の成否はすべて「社長」にあるということです。しかし、多くの中小企業の経営者は経験と勘に頼っており、それを打破するための経営理論は、主に大企業を基に形成されたものでした。中小企業が生き抜くためには、中小企業のためのリーダーシップ理論が必要であると考え、本研究に取り組みました。今後は、実際の企業経営の中で研究を深めたいと思っています。

学生研究奨励賞受賞(学部)

「暗号化Webメール」 の開発



工学部情報工学科4年
丸山 達也 さん

電子メール上で送信者を偽ったメールを送りつける行為、「なりすまし」を防止するために、以前、所属研究室で開発された「Webメールシステム」を改良し、メッセージの暗号化・電子署名をおこなうことで送信メッセージを第三者が盗み見る「盗聴」、「改ざん」を防止する「暗号化Webメールシステム」を開発しました。

近年、電子メールの活用範囲が広くなり、プライバシーにかかわることまで情報がやりとりされるようになりました。そして、電子メールの盗聴や改ざん、なりすましを防止する必要性が出てきている現状を知り、この研究に関わってみようと思いました。

研究では多くの苦難がありました。その中で得た知識や経験を今後の社会奉仕に役立たせていきたいと考えています。

校友会奨学金受賞(大学院)

石見相聞歌の表現と構成 —一笹の葉の歌の本質—



国文学専攻博士後期3年
上安 広治 さん

石見相聞歌とは、万葉集を代表する歌人、柿本人麻呂の作った和歌であり、愛し合った女性との別離を余儀なくされた男の、一途な思いを主題とした作品です。

本論文ではその男女が抱いた意識の複雑な展開などを、じっくり作品を読みすすめていくといった論述方法を探る中で、独自の視点で位置付けようと試みました。

古代和歌の特質などを考える上で、この歌群は格好の素材だと思い研究をはじめました。作者の用いた表現技巧のすばらしさや、作中の男女の機微に共感した点なども、修士論文以来このテーマに関する研究を継続してきた原因の一つであると感じています。

これからも柿本人麻呂作品を中心に、上代日本文学文化に関する研究を一層深めていきたいと思っています。